

平成27年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況
の点検及び評価結果に関する報告書

平成28年11月

小美玉市教育委員会

目次

I	教育委員会点検・評価制度の概要	
1.	趣旨	1
2.	点検評価の対象・期間	1
3.	事務事業の抽出・点検・評価の方法	2
II	教育委員会の活動状況	
1.	教育委員会定例会・臨時会の状況	3
2.	その他の活動	6
3.	教育委員名簿	7
III	事務事業の点検・評価	
1.	教育委員会点検・評価事務事業一覧	8
2.	教育委員会点検・評価事務事業個別結果	10
(1)	学校教育の充実	10
(2)	生涯学習の充実	20
(3)	芸術・文化の振興	28
(4)	スポーツ・レクリエーションの振興	31
(5)	青少年の健全育成	36
IV	教育委員会点検・評価結果一覧	40
V	外部評価員による総評	42

I 教育委員会点検・評価制度の概要

1. 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条第 1 項の規定により、教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、学識経験を有する者の知見の活用を図りつつ点検・評価を行い、その結果について議会に報告するとともに、公表しなければならないとされています。

教育委員会制度は、首長から独立した行政委員会として位置付けられた教育委員会が、教育行政における重要事項や基本方針を決定し、教育長及び事務局が具体の事務を執行するものです。

このため、教育委員会の行政の執行状況について、教育委員会自ら事後にチェックする必要性が高いものと考えられ、この点検・評価は、教育行政の基本的な方針の策定と同様に、教育長に委任せず教育委員会が管理・執行しなければならない事務として位置付けられています。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 3 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2. 点検評価の対象・期間

（1）対象 平成 27 年度小美玉市教育委員会の事務事業を対象とする。

- ・教育委員会活動状況
- ・教育委員会主要事務事業（30 事務事業）

（2）対象期間

平成 27 年度 平成 27 年 4 月から平成 28 年 3 月

3. 事務事業の抽出・点検・評価の方法

(1) 事務事業の抽出

小美玉市総合計画の基本目標のひとつである「個性豊かな教育・文化のまちづくり」を具体的に推進するための基本施策に基づいて30の主要事務事業の抽出を行う。

(2) 自己評価

抽出した30の主要事務事業の対象・目的・内容・実績等を取りまとめ、妥当性・有効性・効率性の観点から主管課による自己点検・評価を行う。

自己点検・評価指標は、「十分出来ている」「出来ている」「あまり出来ていない」「出来ていない」の4つとした。

(3) 外部評価

自己評価を基に外部の学識経験者の小美玉市事務事業点検評価委員による外部点検・評価と意見・助言の聴取を行う。

外部点検・評価指標は、「十分出来ている」「出来ている」「あまり出来ていない」「出来ていない」の4つとした。

小美玉市事務事業点検評価委員

(順不同, 敬称略)

氏 名	備 考
坂 井 知 志	常磐大学教授
藤 田 恵 弘	元公立小学校長
本 田 仁 子	元教育委員

(4) 総合評価

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に、点検・評価は、教育長に委任せず教育委員会が管理・執行しなければならない事務と位置づけられていることから、自己評価及び外部評価・外部意見等を参考に、教育委員会自らが点検・評価を行い、事務事業の今後の方向性を示す総合評価を行う。

総合評価指標は、次の4つとした。

「拡大」：事業内容を拡大して行う事業

「継続」：現在の内容で継続して行う事業

「見直し」：事業内容を見直して行う事業

「終了・廃止・休止」：目的達成により終了となる事業等

II 教育委員会の活動状況

1. 教育委員会定例会・臨時会の状況

(1) 定例会

開催日	件名（議案名・報告名）	
平成27年 4月24日	議案 議案 議案 議案 報告 報告 報告 報告 報告 協議	小美玉市いじめ防止推進委員会設置条例の制定について 生涯学習センターコスモスプロジェクト運営規則の一部を改正する規則について 小美玉市社会教育指導員の委嘱について 準要保護児童生徒の認定について 専決処分の承認を求めることについて（小美玉市社会教育委員兼公民館運営審議会委員の委嘱） 専決処分の承認を求めることについて（小美玉市青少年相談員の委嘱） 専決処分の承認を求めることについて（小美玉市学校歯科医の委嘱） 専決処分の承認を求めることについて（学校事務共同実施グループ事務長の任命） 指定校の変更及び区域外就学について 「茨城県第4採択地区教科用図書選定協議会規約改正」（案）について
平成27年 5月25日	議案 議案 議案 議案 議案 報告 報告 報告	小美玉市社会教育委員兼公民館運営審議会委員の委嘱について 小美玉市立学校評議員の委嘱について 平成27年度教育予算（6月補正予算）について 準要保護児童生徒の認定について 教育委員会教育委員の辞職の同意について 専決処分の承認を求めることについて（学校給食献立会議員の委嘱） 専決処分の承認を求めることについて（学校運営協議会を置く学校の指定の更新） 専決処分の承認を求めることについて（学校運営協議会委員の任命）
平成27年 6月25日	議案 議案 報告 報告 報告 その他	準要保護児童生徒の認定について 小美玉市教育委員会教育長職務代理者の事務の一部を委任する規則の制定について 専決処分の承認を求めることについて（小美玉市学校給食運営委員会委員の委嘱） 専決処分の承認を求めることについて（小美玉市教育委員会事務事業点検及び評価に関する有識者の委嘱） 指定校の変更及び区域外就学について 総合教育会議の概要について

平成27年 7月23日	議案 議案 報告 報告 報告	小美玉市いじめ防止推進委員会運営規則の制定について 平成28年度小・中学校において使用する教科用図書並びに小・中学校特別支援学級（知的障害）において使用する教科用図書について 小美玉市小学校（小川小学校・橘小学校）統合準備委員会委員の委嘱について 小美玉市玉里地区小中一貫教育学校建設準備委員会委員の委嘱について 区域外就学の承認について
平成27年 8月20日	議案 議案 議案 議案 報告 報告 報告	小美玉市小学校（小川小学校・橘小学校）統合準備委員会委員の委嘱について 小美玉市玉里地区小中一貫教育学校建設準備委員会委員の委嘱について 平成27年度教育予算（9月補正）について 教育財産の取得の申出について 財産の取得について 専決処分の承認を求めることについて（小美玉市教育委員会職員の任命） 就学援助について 指定校変更及び区域外就学について
平成27年 9月24日	議案 議案 議案 報告 報告	小美玉市教育委員会教育次長の補職名変更に伴う関係規則の整理に関する規則の制定について 小美玉市教育委員会事務局処務規程の一部を改正する訓令について 平成28年度小美玉市立幼稚園園児募集要項について 就学援助について 指定校変更及び区域外就学について
平成27年 10月27日	報告 その他	指定校変更及び区域外就学について 教育委員会制度について
平成27年 11月25日	議案 報告 報告 報告	平成27年度教育予算（12月補正予算）について 平成26年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価結果に関する報告書について 就学援助について 指定校変更及び区域外就学について
平成27年 12月22日	議案 報告	平成27年度スポーツ優秀選手・優秀団体表彰者の選考について 指定校変更及び区域外就学について

<p>平成 28 年 1 月 27 日</p>	<p>議案 議案 議案 議案 報告 報告 報告</p>	<p>小美玉市教育振興基本計画審議会条例の制定について 小美玉市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について 小美玉市幼稚園管理規則の一部を改正する規則について 小美玉市非常勤幼稚園長の職務及び勤務条件等に関する規則の一部を改正する規則について 就学援助について 区域外就学について 専決処分の承認を求めることについて（小美玉市教育委員会事務局職員の人事発令について）</p>
<p>平成 28 年 2 月 25 日</p>	<p>議案 議案 議案 議案 議案 議案 議案 報告 報告 報告</p>	<p>小美玉市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について 小美玉市基金条例の一部を改正する条例について 小美玉市運動公園条例の一部を改正する条例について 小美玉市運動公園条例施行規則の一部を改正する規則について 小美玉市教育委員会公印規則の一部を改正する規則について 平成 27 年度教育予算（補正予算）について 平成 28 年度教育予算（当初予算）について 小美玉市奨学生の採用について 公有財産の所管換えについて 就学援助について 区域外就学及び指定校変更について</p>
<p>平成 28 年 3 月 28 日</p>	<p>議案 議案 議案 議案 議案 議案 議案 議案 報告 指名</p>	<p>小美玉市教育委員会会議規則の一部を改正する規則について 小美玉市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について 小美玉市図書館条例施行規則の一部を改正する規則について 小美玉市立幼稚園長の任命について 小美玉市立非常勤幼稚園長及び非常勤副園長の任命について 小美玉市スクールソーシャルワーカーの任命について 小美玉市教育相談員の委嘱について 小美玉市社会教育指導員の委嘱について 小美玉市教育委員会職員の任免について 区域外就学及び指定校変更について 小美玉市教育委員会教育長職務代理者の指名について</p>

(2) 臨時会

開催日	件 名 (議案名・報告名)	
平成 27 年 7 月 1 日	指名 議案 議案	小美玉市教育委員会教育長職務代理者の指名について 小美玉市小学校統合準備委員会設置要綱の制定について 小美玉市玉里地区小中一貫教育学校建設準備委員会設置要綱の制定について
平成 28 年 3 月 16 日	議案 議案 議案	平成 27 年度教育予算 (補正予算) について 小美玉市奨学生の採用について 平成 27 年度末・平成 28 年度始県費負担教職員の任免に関する内示について

2. その他の活動

4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県費教職員辞令交付式 ・ 入学 (園) 式 (小学校 12 校, 中学校 4 校, 幼稚園 6 園)
5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校 (園) 訪問 (小学校 5 校, 中学校 2 校, 幼稚園 4 園) ・ 市町村教育委員会連合会定期総会 (常総市) ・ 運動会 (小学校 7 校, 幼稚園 4 園)
6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校 (園) 訪問 (小学校 7 校, 中学校 2 校, 幼稚園 2 園) ・ 運動会 (小学校 2 校) ・ やすらぎの里小川 20 周年記念事業 ・ 総合教育会議
9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育祭 (中学校 4 校), 運動会 (小学校 3 校)
10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合教育会議 ・ 市町村教育委員会教育委員研究協議会 ・ 運動会 (幼稚園 2 園) ・ スポレクデー
11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 七つの祝い
1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成人式典
2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化講演会
3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業 (園) 式 (小学校 12 校, 中学校 4 校, 幼稚園 6 園) ・ 県費教職員辞令交付式

3. 教育委員名簿

(平成27年度中異動)

	氏 名	任 期
教 育 長	加 瀬 博 正	H27. 7. 1 ~ H30. 6. 30 (再任・新教育長)
教育長職務代理者	山 口 和 弘	H26. 6. 20 ~ H30. 6. 19
委 員	中 村 三 喜	H25. 6. 20 ~ H29. 6. 19
委 員	澤 畠 照 子	H27. 6. 20 ~ H31. 6. 19 (再任)
委 員	鶴 町 庄 二	H26. 6. 20 ~ H30. 6. 19
委 員 (保護者)	野 手 利 江	H25. 6. 6 ~ H28. 6. 25

(平成28年度異動)

委 員 (保護者)	柴 田 千 青	H28. 6. 26 ~ H32. 6. 25
-----------	---------	-------------------------

Ⅲ 事務事業の点検・評価

1. 教育委員会点検・評価事務事業一覧

基本目標	基本施策	個別施策	事務事業名	担当課
個性豊かな 教育・文化の まち	(1)学校教育の充実	①幼児教育の推進	幼稚園預かり保育事業	学校教育課
		②確かな学力を身に付けさせるための教育の推進	学力向上支援事業	指導室
		③豊かな心を育む教育の推進	自然教室事業	指導室
			スクールソーシャルワーカー事業	指導室
			生活介助員配置事業	学校教育課
		④健康な体力を育む教育の推進	給食センター運営事業	学校給食課
		⑤社会の変化に適切に対応できる教育の推進	語学指導事業	指導室
		⑥開かれた学校づくりの推進	学校ボランティア活用事業	指導室
		⑦教育施設整備の推進	学校耐震対策事業	施設整備課
			小中学校規模配置適正化事業	施設整備課
	(2)生涯学習の充実	①生涯学習活動の推進	家庭教育学級事業	生涯学習課
			やすらぎの里小川運営事業	生涯学習課
		②生涯学習環境の充実	子ども体験講座事業	生涯学習課
			高齢者大学事業	生涯学習課
			七つの祝い記念イベント事業	生涯学習課
			各区公民館整備費補助事業	生涯学習課
		④公民館活動の充実	公民館事業（公民館講座）	生涯学習課
		⑤図書館活動の充実	図書館運営事業	生涯学習課

(3) 芸術・文化の振興	③施設の活性化	コスモスプロジェクト活性化事業	生涯学習課
	④文化財の保護と活用	文化財事業	生涯学習課
	⑤史料館活動の充実	史料館運営事業	生涯学習課
(4) スポーツ・レクリエーションの振興	①スポーツ活動の場と機会の充実	スポーツ教室開催事業	スポーツ振興課
		市各種大会開催事業	スポーツ振興課
	②指導者・スポーツ団体の育成	スポーツ推進委員運営事業	スポーツ振興課
		市スポーツ少年団育成事業	スポーツ振興課
		総合型地域スポーツクラブ活動支援事業	スポーツ振興課
(5) 青少年の健全育成	②家庭・地域の環境づくり	新入学児童用ランドセル購入事業	生涯学習課
	④社会参加の促進	講演会開催事業	生涯学習課
		成人式事業	生涯学習課
	⑤放課後子ども教室の推進	放課後子どもプラン事業	学校教育課

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）				No.1
事務事業名	幼稚園預かり保育事業	所管課	学校教育課	
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	幼稚園運営経費	
基本施策	(1) 学校教育の充実	事業費	10,550	千円
個別施策	①幼児教育の推進			
事業の対象	元気っ子幼稚園及び玉里幼稚園に通園する園児のうち、教育時間開始前又は教育時間終了後において家庭での保育が出来ないため家庭での保育を必要とする園児。			
事業の目的	核家族化や保護者の就業形態の多様化に対応した子育て支援を目的とする。			
事業の内容	保護者が就労等により留守である家庭の園児を通常保育時間の前後や夏期休業日等に預かり保育する。			
今年度の事業目標実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標			
	サービス提供の維持向上及び安全安心な運営			
	今年度(H27)の事業成果等			
	平成27年度利用園児 155名（元気っ子幼稚園：在園児数101名中71名，玉里幼稚園：在園児数101名中84名 月平均61名の利用） 預かり保育時間中無事故			
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由		
事業実施の妥当性	妥当である	安定した事業運営が図れた。		
事業の有効性	有効である	利用状況が前年度と比較し約9%伸びている。		
資源投入の効率性	効率的である	預かり保育担当職員がいることによって専属的に関わることが出来る。		
サービスの公平性	公平である	早朝預かり保育，園長預かり保育，休業中の保育等，保護者の就業形態に応じた預かり保育ができています。		
所管課評価	評価	妥当性，有効性，効率性，公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。		
	十分出来ている	事業が浸透してきており，利用者も増えてきている。保護者のニーズに対応しながら今後も継続が必要な事業である。		
		今後の課題・改善策等		
		預かり時間中の保育活動の充実。		
外部評価員による評価 【 出来ている 】				
意見	意義のある事業であるので，病児保育など先進的に取り組んでいる地域の情報収集や情報交換等に努め，質的充実を検討いただきたい。			
教育委員会による総合評価 【 拡大 】				
意見	魅力ある幼稚園であるため今後も引き続き実施し，将来的には市内全域で実施できるよう検討されたい。			

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）				No.2
事務事業名	学力向上支援事業	所管課	指導室	
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	学校支援対策事業	
基本施策	(1) 学校教育の充実	事業費	2,618	千円
個別施策	②確かな学力を身に付けさせるための教育の推進			
事業の対象	市内小・中学校（16校）			
事業の目的	地域人材を活用した「学力向上支援員」を配置し、きめ細かな学習支援や学習相談を充実させることにより、学習のつまづきの解消や学習意欲の向上を図り、児童生徒の学力の向上に資する。			
事業の内容	地域の教員経験者や大学生を小・中学校に配置し、小・中学校児童生徒に対し、授業や放課後、長期休業中における学習相談（個別指導）を実施する。			
今年度の事業目標実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標			
	学力向上支援員を授業や放課後及び長期休業中に活用することにより、個別指導を充実させることができ、児童・生徒の意欲を高めるとともに、学習指導の工夫改善を図り、学力を向上させることができた。			
	今年度(H27)の事業成果等			
	対象校すべてで支援員を100%活用し、児童・生徒の学習意欲を高め、基礎学力の確実な定着を図る。 学力向上支援員20名			
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由		
事業実施の妥当性	妥当である	児童生徒の学力向上については、喫緊の課題であり、事業としての妥当性がある。		
事業の有効性	有効である	学力向上支援員が、教員と連携しながら児童生徒のつまづきへの対応、細やかな支援を行っており、有効性が高い。		
資源投入の効率性	効率的である	支援員の報酬は1時間当たり1,000円で、実質支援に当たった時間としている。交通費は支給していない。		
サービスの公平性	公平である	活用に係る各校の予算は、小学校170,000円、中学校290,000円であり、配当額は公平である。		
所管課評価	評価	妥当性、有効性、効率性、公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。		
	十分出来ている	児童生徒の学力向上には、決め細やかな学習支援や学習相談の充実が欠かせない。今後もぜひ継続していきたい事業である。		
		今後の課題・改善策等		
学力向上支援員の人材確保の面で課題がある。年間で勤務できる時間が限られる等の勤務条件も関係していると考えられる。				
外部評価員による評価 【 十分出来ている 】				
意見	人材不足はこの事業にとって大きなネックとなるため、人材の確保に努め、担任・学校との十分な連携のもと細やかな支援ができるよう事業の充実を図っていただきたい。			
教育委員会による総合評価 【 拡大 】				
意見	学力向上支援員の人材の確保が課題。予算・勤務条件の見直しも検討していただきたい。			

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）			No.3	
事務事業名	自然教室事業	所管課	指導室	
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	教育活動振興経費（小学校費）	
基本施策	（1）学校教育の充実	事業費	5,077	千円
個別施策	③豊かな心を育む教育の推進			
事業の対象	市内小学校5年生全員			
事業の目的	人や自然とのふれあいを通し、豊かな人間性や社会性、自然愛護の心を育むため			
事業の内容	夏季休業中に、市内12小学校の5年生が、学校ごとにA・B2班に別れて、国立施設に宿泊し、共同生活を通じた自然体験活動を行う。			
今年度の事業目標実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標			
	集団生活を通して、児童相互、児童と教師の人間的なふれあいを深め信頼関係の確立を図る。登山やオリエンテーリング等を実施し、人や自然とのふれあいを通し、児童一人一人に豊かな心、自然愛護の心を育成する。			
	今年度(H27)の事業成果等			
	普段の生活では体験できないようなキャンドルサービス、野外炊事やオリエンテーリング等の多くの自然体験活動を通して、豊かな人間性や社会性（規範意識・人とのかかわり・忍耐力など）を育むとともに自然愛護の心情を培うことができた。また、市内の5年生が相互に人間的ふれあいを深めることができた。 参加児童数 462名			
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由		
事業実施の妥当性	妥当である	体験活動の充実は新学習指導要領の中でも重点事項である。		
事業の有効性	有効である	市の特色ある事業の一つであり、児童や保護者の要望も強い。		
資源投入の効率性	効率的である	バス代・シート代等を市が補助し、保護者負担は4,500円程度である。効率的な資源投入である。		
サービスの公平性	公平である	市内12小学校の5年生全員対象のため、公平なサービスである。		
所管課評価	評価	妥当性、有効性、効率性、公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。		
	十分出来ている	児童の自立心や社会性を養うために、今後も継続していきたい事業である。		
		今後の課題・改善策等 運営にあたっては、検討委員会を組織し、活動内容や実施方法等について検討を行っている。普段の生活では経験することができない自然体験活動を多く取り入れ、児童の豊かな心、自然愛護の心を育てていきたい。		
外部評価員による評価 【 十分出来ている 】				
意見	安全対策については、想定できうる範囲で検討していただき、今後も実施を続けていただきたい事業である。			
教育委員会による総合評価 【 継続 】				
意見	貴重な体験のできる事業なので、事故に対する対策を十分にし今後も継続していただきたい。			

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）			No.4	
事務事業名	スクールソーシャルワーカー事業	所管課	指導室	
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	子ども環境改善支援事業	
基本施策	(1) 学校教育の充実	事業費	7,953	千円
個別施策	③豊かな心を育む教育の推進			
事業の対象	市内保育園・幼稚園・認定こども園・小中学校			
事業の目的	発達障害や不登校等が懸念される園児・児童生徒に対して、学校と保護者、医療機関等の専門機関との連絡調整を図りながら、より適切な支援を行い、もって園児・児童生徒の健全育成に資する。			
事業の内容	発達障害のある園児・児童生徒の観察、学校関係機関への報告、方針の説明、保護者との面談、不登校傾向にある児童生徒及びその保護者への支援			
今年度の事業目標実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標			
	発達障害や不登校等の園児・児童生徒に対する学校（園）や保護者への相談活動の実施を通して、問題の早期解決等に役立てる。			
	今年度(H27)の事業成果等			
	スクールソーシャルワーカーが臨床心理士等の免許を有しているため、適切な相談活動が行え、医療機関との連携や不登校の解消に役立った。 スクールソーシャルワーカー配置人数：3名 相談件数：904件			
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由		
事業実施の妥当性	妥当である	障害のある園児・児童生徒や不登校児童生徒をもつ保護者や学校に対して、相談活動や医療機関との連携をとることは、より適切な支援をする上で必要な事業であり、妥当である。		
事業の有効性	有効である	発達障害の疑いがある子どもや中学校段階で不登校になる生徒が増加傾向にあり、早い段階で子どもの状況を把握し、適切な対応をとることが求められており、有効である。		
資源投入の効率性	効率的である	スクールソーシャルワーカーは臨床心理士等専門的な知識を有しており、報酬は1時間あたり3,800円である。交通費等は支給していない。		
サービスの公平性	公平である	市内すべての保育園、幼稚園、認定こども園、小中学校を対象としており、公平である。		
所管課評価	評価	妥当性、有効性、効率性、公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。		
	十分出来ている	障害のある園児・児童生徒や不登校児童生徒やその対応に苦慮している保護者や学校に対して、相談活動等を実施した。相談活動では、具体的な支援策等が見出せたり、解決に至った事例も多く見られたので、この事業は有効であった。		
		今後の課題・改善策等		
		教員や保護者との面談が夕方以降であることが多いため、勤務時間外の対応が増加している。スクールソーシャルワーカーの増員や、勤務日数の増加等勤務体制の見直し等の対応が必要である。		
外部評価員による評価		【 出来ている 】		
意見	予算に関しては、外部資金にも視野を広げていただきたい。ニーズの増加に伴い対応の公平性を損なわないよう、実態を見極めて事業を進めていただき、計画性をもった人材確保を望む。			
教育委員会による総合評価		【 継続 】		
意見	ニーズの増加に対応できるよう、引き続きスクールソーシャルワーカーの有効活用を図っていただきたい。			

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）				No.5
事務事業名	生活介助員配置事業	所管課	学校教育課	
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	小学校・中学校・幼稚園運営経費	
基本施策	(1) 学校教育の充実	事業費	44,252	千円
個別施策	③豊かな心を育む教育の推進			
事業の対象	障害のある園児・児童及び生徒の在籍する幼稚園，小学校及び中学校			
事業の目的	小美玉市内の幼稚園・小学校・中学校に在籍する障害のある園児・児童・生徒の学校生活を介助するため。			
事業の内容	小美玉市内の幼稚園・小学校・中学校に在籍する障害のある園児・児童・生徒の学校生活を介助するため，生活介助員を配置し，幼稚園及び学校生活での支援を行う。			
今年度の事業目標実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標			
	障害をもった園児・児童・生徒が安心して学校生活を送ることができるよう，きめ細やかな指導を行える環境整備に努める。			
	今年度(H27)の事業成果等 生活介助員配置人数：39名 (小川小2名，野田小1名，上吉影小2名，橘小4名，竹原小4名，羽鳥小5名，堅倉小4名，納場小4名，玉里小3名，玉里北小2名，美野里中1名，元気っ子幼2名，玉里幼1名，羽鳥幼2名，納場幼2名)			
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由		
事業実施の妥当性	妥当である	障害のある園児・児童生徒が，安全安心な学校生活を送れるよう支援できている。特別支援学級に入級していない児童生徒への支援も手厚く行われており，子どもたちは安定した生活が送れている。		
事業の有効性	有効である	年々障害をもつ児童生徒が増えており，学校でも対応に苦慮しているのが実情。子どもへの個別の声かけでスムーズに授業に取り組むことができる。		
資源投入の効率性	効率的である	園児・児童生徒が介助によって自立していくように支援している。		
サービスの公平性	公平である	個々の障害に応じた適切な支援ができるよう生活介助員の研修等も行っており，介助員の質の向上に努めている。		
所管課評価	評価	妥当性，有効性，効率性，公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。		
	十分出来ている	生活介助員を配置することにより，障害のある園児・児童生徒も安全に園や学校生活を送ることができる。また，保護者も安心して園や学校に送り出すことができるため，今後も欠かせない事業である。		
		今後の課題・改善策等 生活介助員を必要とする園児・児童生徒が増えているので，予算と人材の確保が必要である。		
外部評価員による評価 【 出来ている 】				
意見	非常勤職員の限られた時間で障害に応じた対応は難しいと思うが，今後も介助員の質を上げる方を続けていただきたい。予算と人材の確保が必要である。			
教育委員会による総合評価 【 継続 】				
意見	支援を必要とする幼児・児童・生徒は増えているので，学校からのニーズに対応できるよう，また介助員の質の向上にも努めていただきたい。			

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）			No.6	
事務事業名	給食センター運営事業	所管課	学校給食課	
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	玉里・小美玉給食センター運営事業	
基本施策	(1) 学校教育の充実	事業費	438,704	千円
個別施策	④健康な体力を育む教育の推進			
事業の対象	市立幼稚園（6園），市立小学校（12校），市立中学校（4校）の児童生徒及び教職員			
事業の目的	心身ともに健全な発達と健康の保持増進に資するため，児童生徒に適した栄養のバランスのとれた安全安心な完全給食を提供する。			
事業の内容	学校給食の調理及び配膳業務：直営事業 給食実施日数：197日 学校給食運搬業務：業務委託 食育指導事業：栄養教諭等による給食指導，「献立表」・「給食だより」による食育指導 食材の放射能測定及び公表：直営（各月末：外部委託による精密検査）使用食材の生産地公表 学校給食施設の維持管理・補修等：一括契約及び指名又は随意契約にて給食施設の点検及び補修等の維持管理を実施			
今年度の事業目標実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標			
	・安心安全な学校給食の提供を図る ・安全性の確保と保護者への情報提供を図る ・食育の普及推進を図る ・給食施設の維持管理に努める			
	今年度(H27)の事業成果等			
	学校給食の提供については事故なく実施できた。児童に対するアレルギー対応について保護者・担当教諭と面談を行った。栄養教諭・管理栄養士等による食育指導等により食育の普及推進及び地場製品の活用と情報提供を行った。 食材については毎日放射能測定を実施し，食材中の放射能測定結果を毎月市報に公表した。 給食施設の維持管理については，毎日の業務に支障のないよう徹底した維持管理に努めた。安全・安心な学校給食を提供するため，衛生管理には最大の配慮を行っている。 給食数：5,060人/日 アレルギー対応食：5件			
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由		
事業実施の妥当性	妥当である	児童生徒に適した栄養バランスの摂れた給食を提供することができた。		
事業の有効性	有効である	完全給食や食育指導等を行うことにより心身の健全な発達と健康の保持増進に寄与している。		
資源投入の効率性	やや効率的である	建設年度や施設の機器等の違いにより，小美玉学校給食センターと玉里学校給食センターでの統一規格での共同購入をすることが難しい。		
サービスの公平性	公平である	小美玉市内の市立幼稚園及び市立小中学校へ定額負担で完全給食を提供している。		
所管課評価	評価	妥当性，有効性，効率性，公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。		
	十分出来ている	地場産品を活用した献立内容が実施され，栄養バランスの摂れた給食を提供できた。		
		今後の課題・改善策等		
		放射性物質測定及び公表については日常的に行う。児童生徒から未納分の学校給食費への充当を円滑に行う。学校給食費滞納者の対応について検討する。玉里給食センターと統合に向けての準備を進めていく。		
外部評価員による評価		【 十分出来ている 】		
意見	小美玉給食センターについては衛生面，安全面に十分配慮された施設である。地場産品の利用率も十分上がってきている。今後も安心安全な食の提供をお願いしたい。			
教育委員会による総合評価		【 継続 】		
意見	施設の老朽化に伴う統廃合には十分準備をし，進めていただきたい。			

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）				No.7
事務事業名	語学指導事業	所管課	指導室	
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	語学指導経費	
基本施策	(1) 学校教育の充実	事業費	25,554	千円
個別施策	⑤社会の変化に適切に対応できる教育の推進			
事業の対象	市内小・中学校16校			
事業の目的	市内各小・中学校にALTを派遣し、小学校外国語活動や中学校の英語教育の充実を図る。			
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校英語担当教員とのチーム・ティーチングによる外国語（英語）指導 ・小学校学級担任とのチーム・ティーチングによる外国語活動の指導 ・プレゼンテーションフォーラムの実施 			
今年度の事業目標実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標			
	各中学校での英語担当教員とALTによるチーム・ティーチングを通して、生徒の英語に対する学習意欲や英語力の向上を図る。小学校の外国語活動でALTが指導することにより、英語の音や表現に慣れ親しませる。			
	今年度(H27)の事業成果等 英語の授業や外国語活動の時間等でALTを効果的に活用することができた。児童生徒が英語に親しむようになるとともに、学習意欲や学力の向上が見られた。 ALT8名（派遣契約7名、交流都市1名）			
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由		
事業実施の妥当性	妥当である	グローバル化に対応した人材の育成を目指すうえで、本事業は重要であり、妥当である。		
事業の有効性	有効である	小・中学校、幼稚園等において発達段階に応じた英語教育や国際理解教育を充実させることができる点で有効である。		
資源投入の効率性	効率的である	派遣業者と労働者派遣契約を結び、効率的に運用している。		
サービスの公平性	公平である	各中学校にALTを1人ずつ配置し、小学校へは3人のALTを計画的に派遣しており、公平と言える。		
所管課評価	評価	妥当性、有効性、効率性、公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。		
	十分出来ている	ALTが授業に参加することにより、児童生徒が実際に英語を使ってコミュニケーションを図る機会が生まれ、学習意欲を高めるために非常に有効であった。また、英語教員もALTからユニークな指導方法を学んだり、情報を得たりすることができ、指導力向上のためにも役立っている。		
		今後の課題・改善策等 ALTと日本人教師との適切な役割分担については、さらに研究する余地がある。ALTの打合せ等において、協議していく。平成27年度途中から、小学校担当のALTを1名増員した。補正により契約を追加したが、予算作成に反映させていく必要がある。		
外部評価員による評価 【 十分出来ている。 】				
意見	担任を主とし、ALTとのコミュニケーションを十分図っていただきたい。 国際交流を図る時には自分の文化・地域・家族を説明できる語学力が必要。ぜひ充実を図っていただきたい。			
教育委員会による総合評価 【 継続 】				
意見	引き続き担任とALTとの連携を図り事業を継続していただきたい。			

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）			No.8	
事務事業名	学校ボランティア活用事業	所管課	指導室	
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	学校ボランティア活用事業	
基本施策	(1) 学校教育の充実	事業費	210	千円
個別施策	⑥開かれた学校づくりの推進			
事業の対象	市内小・中学校			
事業の目的	学校と地域の連携を図り、地域全体で学校教育を支援する体制を整えるとともに、各地域の教育力の向上を図るため、学校支援ボランティアの活用を進め、ボランティアコーディネーターの養成を図る。			
事業の内容	①学校の教育活動を支援するボランティアを広く募集し、地域人材を発掘し、活用を推進する。②ボランティアと学校の橋渡し役としてのコーディネーターの育成を図るため、研修を行う。③①及び②を推進することによって、地域の教育力の向上、学校支援団体の体制を整備する。			
今年度の事業目標実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標			
	市内小・中学校において、学校支援ボランティアの登録が得られるようにし、積極的な活用を図る。			
	今年度(H27)の事業成果等			
	全体で約70人が学校支援ボランティアに登録し、継続的に教育活動を支援していただいた。 ボランティアが参加する活動 全16校 合計385回			
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由		
事業実施の妥当性	妥当である	学校と地域の連携を図り、地域全体で学校教育を支援する体制を整備するための事業として妥当である。		
事業の有効性	有効である	各地域の教育力の向上を図り、より組織的な学校支援体制を構築することができ、有効である。		
資源投入の効率性	効率的である	ボランティア保険の加入費及び謝礼（1回のボランティア活動に際し500円の図書カード）を市が負担している。効率的な資源投資と言える。		
サービスの公平性	公平である	16校全てが対象の事業であり、公平といえる。		
所管課評価	評価	妥当性、有効性、効率性、公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。		
	出来ている	全小中学校が事業に取り組んだ。地域全体で学校を支えるという考え方を浸透させることに寄与することができた。今後も継続していきたい事業である。		
		今後の課題・改善策等	ボランティアの確保において、ボランティアの活動の基盤がある地域と開発中の地域では、参加状況が異なり、ボランティアの確保が難しい状況である。ボランティア協力をチラシ等を活用して呼びかける。	
外部評価員による評価 【 出来ている 】				
意見	学校教育の支援の中身を検討いただきたい。 有償のボランティアという考え方もあるので、十分に根付いたところでボランティアのあり方を検討してはどうか。			
教育委員会による総合評価 【 継続 】				
意見	学校のニーズに合った学校ボランティアの登録が増え、コーディネーターの育成が進むことを望む。学校ボランティアのあり方の再検討も必要。			

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）				No.9
事務事業名	学校耐震対策事業	所管課	施設整備課	
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	小学校・中学校建設事業（補助）	
基本施策	(1) 学校教育の充実	事業費	241,664	千円
個別施策	⑦教育施設整備の推進			
事業の対象	小学校・中学校の学校施設			
事業の目的	学校施設は、児童生徒の学習・生活の場として豊かな人間関係を育むための教育環境として重要な意義を持つとともに、災害時には地域住民の避難場所としての役割を果たすことから、学校施設の整備充実・安全性を確保するため耐震化を進め、安心安全な教育環境を整備する。			
事業の内容	市は、平成21年3月に「耐震改修促進計画」を策定し、平成27年度までに耐震化90%以上の達成目標を定め耐震化を図っている。そのため、学校施設についても耐震診断調査による耐震化計画を作成し、Is値0.7未満の学校施設を耐震補強工事又は改装工事を計画的に行い安全性を確保する。			
今年度の事業目標実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標			
	橘小学校体育館耐震補強工事	下吉影小学校講堂非構造部材耐震化工事	小川北中学校講堂非構造部材耐震化工事	羽鳥小学校体育館耐震補強工事实施設計 等
	今年度(H27)の事業成果等			
	橘小学校体育館耐震補強工事	下吉影小学校講堂非構造部材耐震化工事	小川北中学校講堂非構造部材耐震化工事	羽鳥小学校体育館耐震補強工事实施設計 等
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由		
事業実施の妥当性	妥当である	学校施設（校舎及び体育館）は教育環境としての機能とともに地域コミュニティの拠点や災害時の避難場所としての役割を担っていることから妥当である。		
事業の有効性	有効である	既存建築物の耐震性能の向上を図るためには、改築を行うか耐震補強工事をもってする他なく有効である。		
資源投入の効率性	効率的である	耐震補強等工事には、国（文部科学省）の交付金等による充当があり、その事業の中で実施するため効率的である。		
サービスの公平性	公平である	耐震補強等工事は、耐震診断を行った上で優先度を決定し実施してきたため公平である。		
所管課評価	評価	妥当性、有効性、効率性、公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。		
	十分出来ている	本事業は、平成27年度までの耐震化率の目標を90%と設定し、平成20年度から耐震診断を行い、工事の優先度を決定したうえで順次計画的に実施できた。平成27年度末の耐震化率は93.8%で、平成26年度の全国平均には届かなかったが県平均を超え、目標値を達成することはできた。		
		今後の課題・改善策等 平成28年3月末現在で補強が必要な棟数は残り3棟となっているが、1棟は平成28年度に工事を予定し、また、残りの2棟は平成31年度の学校規模配置適正化による統合で解消される見込みとなっており、それをもって小美玉市の耐震化率は100%となる予定である。		
外部評価員による評価 【 出来ている 】				
意見	計画としては、統廃合を含めると平成28年度には達成率100%になるということであれば、淡々と進めざるを得ない。しかし、地震の危険性を考えれば、適正化による小学校統廃合までの間、橘小学校については、何らかの手当を応急的に対応していただきたい。			
教育委員会による総合評価 【 継続 】				
意見	計画に基づき着実に耐震化を進めていただきたい。			

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）				No.10
事務事業名	小中学校規模配置適正化事業	所管課	施設整備課	
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	小学校建設事業（補助）	
基本施策	(1) 学校教育の充実	事業費	387,095	千円
個別施策	⑦教育施設整備の推進			
事業の対象	小中学校の学校施設等			
事業の目的	全国的な少子化の傾向と同様に本市においても児童生徒数の減少が進んでいる。このため児童・生徒の社会性の育成や互いが切磋琢磨し成長する場として、教育施設等は一定規模を確保することが重要と位置付け、小美玉市の将来を担う子どもたちのより良い教育環境の整備促進を図ることを目的とする。			
事業の内容	小美玉市立小中学校規模配置適正化実施計画が平成27年2月に策定され、望ましい学校規模として、小学校を各学年2学級、中学校については同3学級の適正規模とする方針が示された。これを受け、小川南中学校区・北中学校区の小学校統合及び玉里地区内においては小学校統合とあわせて玉里中学校を小中一貫校として整備する。			
今年度の事業目標実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標			
	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎等改修工事（旧小川高校校舎、体育館、外構工事 ※H27, 28の2ヵ年継続事業） ・統合小学校建設基本設計（小川小・橘小） ・統合小、一貫校建設準備委員会の開催（小川小・橘小、玉里地区小中学校） 			
	今年度(H27)の事業成果等			
	<ul style="list-style-type: none"> ・旧小川高校倉庫棟解体工事 ・（仮称）小川・橘統合小学校建設基本設計 ・小川橘統合小学校統合準備委員会 5回開催 委員23名 ・玉里地区小中一貫校建設準備委員会 4回開催 委員37名 			
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由		
事業実施の妥当性	ほぼ妥当である	本市における児童生徒数の減少や学校施設の老朽化等の諸問題に対応するため、学校再編に本格的に取り組むことで、より充実した学習環境のもとで学校生活が送れるようになることから事業の実施は妥当と言える。		
事業の有効性	やや有効である	小川地区及び玉里地区においては、小中学校規模配置適正化実施計画の基本方針との観点から学校統廃合等による再編や施設整備が必要とされており、学校運営を円滑に進めるためにも有効である。		
資源投入の効率性	やや効率的である	小中学校規模配置適正化実施計画において、統廃合の対象とされた学校における年度毎の整備スケジュールを示した。この中で、学校建設等に係る財源計画を明示しており、国庫補助や負担金事業の活用により、市財政における負担軽減に配慮している。		
サービスの公平性	やや公平である	児童生徒数が少ない等比較的小規模とされる学校が統廃合の対象となっているが、複式学級を有する学校や新入学児童数等が著しく減少傾向にある学校等については学校経営等を考えた場合には、その必要性も高いことから公平と言える。		
所管課評価	評価	妥当性、有効性、効率性、公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。		
	出来ている	<p>児童生徒一人ひとりが多くの仲間と交流を深め、励ましあい有意義な学校生活を送るため、教職員が協力し合い多様で工夫にあふれる教育活動を行うためにも学校規模配置適正化は重要であると捉えている。今後も、事業の必要性等を視野に入れながら整備スケジュールに基づき、本事業は継続して取り組むべきものとする。</p> <p>今後の課題・改善策等</p> <p>厳しい財政状況を考えて、今後は財源計画の見直しや整備スケジュールの変更等柔軟な対応が求められる。しかしながら、計画に位置づけられた小中学校については、施設整備等の進捗を図りながら児童生徒や保護者の要望にこたえなければならない。</p>		
外部評価員による評価		【 十分出来ている 】		
意見	課題が山積している部分もあると思うが、それぞれの委員会で地域の意見を拾い出しながら、迅速に計画に沿って進めていただきたい。教育施設の整備・リニューアル計画はどうあるべきか、小中学校の跡地利用も含め、整備計画を立案していただきたい。			
教育委員会による総合評価		【 継続 】		
意見	小美玉市小中学校規模配置適正化実施計画に基づき、着実に事業を進めていただきたい。			

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）				No.11
事務事業名	家庭教育学級事業	所管課	生涯学習課	
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	社会教育活動総合事業	
基本施策	(2) 生涯学習の充実	事業費	365	千円
個別施策	①生涯学習活動の推進			
事業の対象	市内保育園・幼稚園・小学校低学年の保護者			
事業の目的	家庭は、人間形成の場として基本的かつ重要な教育機能を持っています。そのため、親等が子育てについての悩みや課題等を話し合い、親の在り方について学習し現代にふさわしい家庭教育の確立を図る。			
事業の内容	6月～翌年2月までの期間内で学習会を開催 (講演会・講話・懇談会・親子レクリエーション・食育教室・体験学習・出前講座等の実施)			
今年度の 事業目標 実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標			
	各家庭教育学級において、家庭教育に関する学習会や講座を開催し、学級生（保護者）相互のコミュニケーションを図ると共に、子育ての悩みや課題等について情報交換をし、家庭においての親の在り方について学習する。			
	今年度(H27)の事業成果等			
	各学級において、様々な内容の学習会や講座・移動教室を開催し、親子・学級生（保護者）同士のコミュニケーションを図りながら、懇談会等において子育ての悩みを話し合ったり、体験活動や講演会・講話等で知識を得たりしながら、親として自分自身を見つめ直し学ぶ事が出来ている。 学級数 29学級			
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由		
事業実施の妥当性	妥当である	各学級において、学級生（保護者）が運営委員会を立ち上げ、学習内容・学習方法等を計画し、親子・学級生（保護者）同士のコミュニケーションを図ると共に、家庭における親の在り方の重要性を認識する。		
事業の有効性	有効である	多様な学習内容の学習会・懇談会等を開催して、親子・学級生（保護者）同士のコミュニケーションを図ると共に、子育てについての情報交換を行う事で、親として学ぶ事や自分自身を見直す事が出来ている。		
資源投入の効率性	やや効率的である	各講師謝金や消耗品の購入費を市の予算から支出しているため、多彩な講師を依頼することが出来る。		
サービスの公平性	公平である	市内各保育園・幼稚園・小学校を対象に家庭教育学級運営説明会を開催して、家庭教育学級の進め方の講話や資料「親の学びナビ」や講話・講座関係資料等を配布している。		
所管課 評価	評価	妥当性、有効性、効率性、公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。		
	出来ている	各学級とも事業を把握し、年間5～6回の学習会・講座等を開催している。参加率が高くなっている。		
		今後の課題・改善策等		
		市内の2保育園が実施していない為、実施を促す必要がある。		
外部評価員による評価 【 出来ている 】				
意見	家庭教育学級は、本来子どもが育っている年代も支えていくことが望ましいため、ぜひ男性を巻き込む方策を考えられ、事業を推進していただきたい。 予算の有効活用を望む。			
教育委員会による総合評価 【 継続 】				
意見	男性（父親）の出席が多くなるよう望む。根気よく事業を継続していただきたい。			

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）				No.12
事務事業名	やすらぎの里小川運営事業	所管課	生涯学習課	
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	やすらぎの里運営費	
基本施策	(2) 生涯学習の充実	事業費	2,046	千円
個別施策	①生涯学習活動の推進			
事業の対象	小美玉市民および近隣市町住民			
事業の目的	市民の教養・芸術文化の振興及び普及向上に寄与し、地域のコミュニケーションづくりの一環とする。			
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> 多くの住民が文化活動や会議、学習の場として利用し活動することを奨励・援助する。 市内外の自主団体を中心にミニコンサート、芸術展など来場者が一体となり活気あふれるイベントを行い、やすらぎの里小川の更なる活性化を図る。 園内の草花を充実させ、四季を通じて散策を楽しめる環境を整える。 			
今年度の事業目標実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標			
	20周年記念事業を成功させ、やすらぎの里小川活性化の起爆剤とする。 今年度(H27)の事業成果等 20周年記念事業においては、約2,100人の集客をすることができ、初めて訪れる方も多く当施設をより多くの住民のみなさまに知ってもらうことができた。 また、昨年度はいばらきフィルムコミッションでの撮影があり、古民家をはじめ施設の新たな利用価値を見出すことができた。			
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由		
事業実施の妥当性	妥当である	市民の文化活動、学習活動の場所だけでなく、四季を通じて散策できるいこいの場となっており妥当である。特に20周年記念事業は、利用団体の発表の場、市民・近隣住民への施設のアピールを行うという点においては一番妥当な方法と思われる。		
事業の有効性	やや有効である	20周年記念事業などを通じて市内・近隣市町にもアピールすることができ、利用人数の増加に繋がった。		
資源投入の効率性	やや効率的である	20周年記念事業（やすらぎ里まつり）や、施設管理などを行うことにより、自然を活用して施設のアピールになっている。		
サービスの公平性	公平である	市民だれもが集える施設であり、公平性があり、貸館については市内団体だけに限らず、市外団体も利用可能となっている。		
所管課評価	評価	妥当性、有効性、効率性、公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。		
	出来ている	20周年記念事業を通じて、多くの市内外の方々にアピールでき、施設の良さをわかっていただき、利用者の増につながった。		
		今後の課題・改善策等		
		建物の外に目を向け、自然を楽しんでもらう環境整備が必要である。28年度はアジサイを500本植樹する。		
外部評価員による評価		【 あまり出来ていない 】		
意見	20周年事業や植樹の努力は認める。 今後の運営方法や運営形態については、市全体で議論する必要がある。			
教育委員会による総合評価		【 継続 】		
意見	当初の施設利用目的を離れ、方向性をはっきりさせる段階に来ている。事業内容の見直しも検討しながら事業を継続していただきたい。			

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）				No.13	
事務事業名	子ども体験講座事業	所管課	生涯学習課		
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	社会教育活動総合事業		
基本施策	(2) 生涯学習の充実	事業費	388	千円	
個別施策	②生涯学習環境の充実				
事業の対象	市内に住む子どもたちとその保護者				
事業の目的	市の生涯学習の拠点であるコスモスト、その周辺環境を利用して様々な事業を展開し、特に子どもの体験学習に力点を置き、参加する子どもとその保護者、また協力してくれる市民、そして行政のパートナーシップにより生き生きとした生活と未来につながるまちづくりの推進を図る。				
事業の内容	自然体験学習 舞台表現講座 造形講座 その他				
今年度の事業目標実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標				
	子どもが興味を持つ講座内容の検討と講座数の増加を図る。				
	今年度(H27)の事業成果等				
	<p>多くの子どもたちの参加を得て好評であった。</p> <p>演劇体験 320人 おりがみ教室 29人 親子マジック教室 24人</p> <p>勾玉作り講座 27人 和太鼓講座 26人 星を観る会 83人</p> <p>わんぱく移動教室 28人 親子hip-hopダンス講座 15人</p>				
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由			
事業実施の妥当性	妥当である	子どもたちが学び、体験し、感動を共有できる講座の開催は、参加する子どもたちの経験や想像力を養う最高の場である。			
事業の有効性	有効である	保護者と一緒に参加することで家庭教育の一端を担う有意義な事業である。			
資源投入の効率性	効率的である	限られた予算内で、講座数の増加を図っている。			
サービスの公平性	公平である	事業の実施にあたっては、広報紙・HP・市内学校へのチラシ配布等を行い募集を行っている。この為、各地区からの参加を得ている。			
所管課評価	評価	妥当性、有効性、効率性、公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。			
	出来ている	<p>いろいろなメニューを揃えたことにより、多くの子ども達や親子で楽しむことができ、子ども達にも興味を持ってもらうことができた。</p> <p>また、演劇体験は、その後公演につながるなどの発展をみせている。</p>			
		<p>今後の課題・改善策等</p> <p>子ども達からの意向調査をし、特に演劇に関しては、参加者を増やすことが必要である。</p>			
外部評価員による評価 【 出来ている 】					
意見	バラエティに富んだ講座が開催されているので、これらの講座を核にしながら事業の公共性を考慮し、家庭の状況、身体の状態等で来館できない子どもたちへの視点も持って事業を展開していただきたい。				
教育委員会による総合評価 【 継続 】					
意見	固定化された事業内容を見直し、参加人員の獲得に努力していただきたい。				

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）				No.14
事務事業名	高齢者大学事業	所管課	生涯学習課	
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	社会教育活動総合事業	
基本施策	(2) 生涯学習の充実	事業費	343	千円
個別施策	②生涯学習環境の充実			
事業の対象	1. 小美玉市民であること 2. 満60歳以上であること			
事業の目的	年齢にふさわしい社会的意識を高め、生涯に渡って健康で生きがいを持って生活できるように開講する。			
事業の内容	1. クラブ活動（園芸・料理・洋裁・書道・グランドゴルフ・合唱・健康体操・パソコン） 2. 講演会・講話 3. 移動学習会			
今年度の事業目標実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標			
	各地区において、クラブ活動・学習会・移動教室・講演会・講話など、内容を検討し、より多くの高齢者の方に参加していただけるような事業を実施する。			
	今年度(H27)の事業成果等 各地区において、クラブ活動・学習会・移動教室・講演会・講話等を開催し実施している。名称も高齢者大学ではなく、ふれあい大学・コスモス大学・いきいき大学等親しみやすい名称にして、多くの方に参加をいただき事業展開が出来た。 参加者実績 約579名			
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由		
事業実施の妥当性	妥当である	様々な学習会・クラブ活動・移動学習・講演会などを開催して、高齢者個々の社会的知識を高め、健康で生きがいの持てる活動の実施。		
事業の有効性	有効である	趣味をいかせる講座・健康に関する学習会・移動学習会等、様々な学習会を開催し高齢者の社会的知識を高め、生きがいの持てる学習活動の場の提供。		
資源投入の効率性	やや効率的である	各地区の高齢者代表の方などと学習会の実施内容等を確認・調整等をして学習会を実施し、希望に合った学習会を実施。		
サービスの公平性	やや公平である	各地区、希望に合った学習会を実施しているが、地区ごとに学習内容・回数に差がある。		
所管課評価	評価	妥当性、有効性、効率性、公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。		
	出来ている	様々な学習会・クラブ活動・移動学習・講演会などを開催することで、高齢者個々の社会的知識を高め、健康で生きがいの持てる学習活動の実施ができ、コミュニケーションが図れた。		
		今後の課題・改善策等 地域により、実施回数や参加者に温度差があるため、社会教育指導員を中心として意向調査をしながら、参加しやすい学習会を実施する必要がある。		
外部評価員による評価 【 出来ている 】				
意見	生涯学習は、「いつでもどこでもだれでもなんでも学ぶ」ということを考えれば、元気ではない高齢者に対しどうアプローチするかが大きな課題。ぜひ福祉部や社会福祉協議会などと調整をしていただき、多岐にわたった事業を実施していただきたい。			
教育委員会による総合評価 【 継続 】				
意見	他事業及び他団体との関連性を考慮しながら、参加しやすく日常生活において活かせる内容の事業展開をしていただきたい。			

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）				No.15
事務事業名	七つの祝い記念イベント事業	所管課	生涯学習課	
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	社会教育活動総合事業	
基本施策	(2) 生涯学習の充実	事業費	411	千円
個別施策	②生涯学習環境の充実			
事業の対象	小学校新入学予定児童			
事業の目的	未来を担う子どもたちの健やかな成長と、豊かな心の醸成を図る。			
事業の内容	演劇鑑賞及びバラエティショーの提供（委託）			
今年度の事業目標実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標			
	多くの出席者のもと、心の醸成に資する質の高い演目を選定し提供する。			
	今年度(H27)の事業成果等			
	多くの出席者のもと、安価で質の高い演劇を提供することが出来た。 該当児童438名中 出席児童418名			
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由		
事業実施の妥当性	妥当である	新入学児童が親子で一同に会し、七つの祝い式典を実施するとともに、親子で楽しめ心に残る演劇を提供出来ている。		
事業の有効性	有効である	子供たちの健やかな成長に必要な、思いやり・我慢する心を養える内容の演劇を提供する事で、親子のふれあいや家庭教育の見地からも成果が期待出来る。また、親にも親しみのある質の高い演劇になっているので、親子で楽しめる。バラエティショーも親子で楽しめる内容になっているので、好評をいただいている。		
資源投入の効率性	効率的である	演劇鑑賞及びバラエティショーの2部構成になっているが、安価で提供することが出来ている。		
サービスの公平性	公平である	市内全小学校入学予定者を対象としており、参加率を高く公平性がある。		
所管課評価	評価	妥当性、有効性、効率性、公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。		
	十分出来ている	社会情勢の変化やニーズを的確に捉え、子どもたちの健やかな成長に今もっとも必要とされる、思いやりや我慢する心を養える内容の演劇を提供できている。		
		今後の課題・改善策等 演劇は、毎回、違う演目を選定しているが、バラエティショーで子どもたちが、舞台まで駆け寄ってきてしまい危険があるので、事故がおきないように警備体制を整える。		
外部評価員による評価 【 十分出来ている 】				
意見	事業を記録に残すことを検討してはどうか。映像は権利処理をすれば有効活用できるので、ぜひ活用するための記録として残していただきたい。			
教育委員会による総合評価 【 継続 】				
意見	すばらしい事業であるので、引き続き継続していただきたい。			

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）				No.16
事務事業名	各区公民館整備費補助事業	所管課	生涯学習課	
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	社会教育総務事務費	
基本施策	(2) 生涯学習の充実	事業費	26,927	千円
個別施策	②生涯学習環境の充実			
事業の対象	小美玉市内（各地区公民館）			
事業の目的	各地区公民館整備に要する経費について、補助金を交付する。			
事業の内容	地区公民館の建設（建設費及び埋蔵文化財に係る調査経費の3分の2以内）上限額：1,600万円 地区公民館の修繕（20万円以上を要した補修費に対し、2分の1以内）上限額：当該年度100万円 地区公民館敷地取得（評価額を基礎として算出した実売価格相当額の2分の1以内）上限額：500万円 地区公民館敷地賃借料（土地賃借料の3分の2以内）上限額：2万円			
今年度の事業目標実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標			
	更なる各区への事業の周知と理解に努める。			
	今年度(H27)の事業成果等			
	区長会総会、新任区長説明会等において制度の周知が図れた。 補助金交付 31地区			
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由		
事業実施の妥当性	妥当である	当事業の平成19年度創設以来、地区住民の連携及び活動拠点となる地区公民館の維持修繕に役立っている。		
事業の有効性	有効である	地区公民館の整備により、地域住民の利用回数が多くなり、ふれあいの場となっている。		
資源投入の効率性	効率的である	財源の確保が課題であり、基地周辺地区については再編交付金を原資に「各集会施設整備基金」を創設し対応している。		
サービスの公平性	公平である	各区公民館において、対象となる事業で公平である。		
所管課評価	評価	妥当性、有効性、効率性、公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。		
	出来ている	事業内容について、各地区へ浸透しつつあり実施地区数も年々増加傾向にある。また、修繕要望にも効率的に機能し、特に不測の際の対応に有効な制度である。		
		今後の課題・改善策等		
		今後の事業地区の増加に伴い、財源の確保が最重要課題であり、一部、基地周辺地区については再編交付金「各集会施設整備基金」を創設し対応している。申請から、交付決定までの期間短縮のため、当初予算での予算額を増額する。		
外部評価員による評価		【 出来ている 】		
意見	補助金を交付しているので、地区公民館としての有効な活用を望む。			
教育委員会による総合評価		【 継続 】		
意見	補助が手厚くなり有効な事業である。各区公民館の有効な利活用が図れるようにしていただきたい。			

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）			No.17
事務事業名	公民館事業（公民館講座）	所管課	生涯学習課
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	小川・美野里・玉里・公民館事業費
基本施策	(2) 生涯学習の充実	事業費	3,272 千円
個別施策	④公民館活動の充実		
事業の対象	市民		
事業の目的	公民館を生涯学習の拠点として定着させるとともに、誰もが気軽に、楽しく学べる各種講座を実施し、ひとりひとりが充実した生活を送ることができるよう学習の機会を提供する。		
事業の内容	小川公民館、美野里公民館（地区館含む）、玉里公民館それぞれにおいて定期講座（8～10回講座）を実施するとともに、季節に応じた講座や暮らしの講座などの単発講座を実施する。また、手作り講座やわんぱく教室、自然観察教室及び文学散歩など野外での事業を実施する。		
今年度の事業目標実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標		
	趣味や学習の場として気軽に利用される施設を目標に、市民講座や手作り講座・子ども体験講座等の事業の展開と自主講座団体の育成を図る。		
	今年度(H27)の事業成果等		
	生涯学習の場として、住民の意識や要望に伴う講座や夏休み体験講座、文学散歩や季節の講座を実施した。さらに、各公民館のイベントや事業により、自主団体の発表の場が拡大された。 講座参加人数 ・小川 15講座 183人 ・美野里 22講座 227人 ・玉里 20講座 894人 (自然観察教室、子ども体験講座含む) 出前講座14講座		
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由	
事業実施の妥当性	妥当である	社会教育法により、公民館は住民の教養の向上、健康の増進等に寄与するために講座の企画、学習情報等を提供するよう求められており、公民館講座は生涯学習のきっかけづくりや市民が生涯学習を学ぶ機会の提供であり妥当である。	
事業の有効性	有効である	各講座には、多くの市民が参加しており、好評を得ている。	
資源投入の効率性	効率的である	主な経費が講師謝金であり、額については教育委員会内で整合性が図られている。	
サービスの公平性	公平である	市民誰もが参加でき、公平である。	
所管課評価	評価	妥当性、有効性、効率性、公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。	
	出来ている	多くの市民に気軽に学習できる機会を、提供することができた。	
		今後の課題・改善策等	
		若年層も参加できる講座を提供する為に、広くニーズ調査をする必要がある。	
外部評価員による評価 【 出来ている 】			
意見	生涯学習講座に参加できない要因を分析し、小美玉市には何が必要なのか先進地の例なども参考にされ、公民館事業が市民誰もが参加できるよう検討をお願いしたい。		
教育委員会による総合評価 【 継続 】			
意見	各地区公民館での生涯学習活動が活発になる事が理想。市民のニーズ調査をするなどして、事業内容を見直しながら事業展開をしていただきたい。		

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）				No.18
事務事業名	図書館運営事業	所管課	生涯学習課	
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	図書館運営費	
基本施策	(2) 生涯学習の充実	事業費	32,276	千円
個別施策	⑤図書館活動の充実			
事業の対象	市民(約53,000人)及び県央地域8市町村(水戸市・ひたちなか市・那珂市・東海村・笠間市・城里町・大洗町・茨城町)、隣接の石岡市・行方市・鉾田市の各市町村民			
事業の目的	住民がさまざまな情報を入手し、その学習の意欲を支援する施設として、幼児から高齢者まで、住民の求める資料を提供し、その生活文化の向上に資する。			
事業の内容	図書・AV資料の購入、レファレンス業務(図書検索、利用者の調べ物の支援)、小・中学校・幼稚園・保育園・福祉施設などへの団体貸出業務、移動図書館車の運行、ブックスタート事業、企画展・催事の開催、おはなし会の実施 直営による。			
今年度の事業目標 実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート事業を通して乳幼児の保護者に「読み聞かせ」や図書館の利用方法の説明等の活動をする。 ・移動図書館車の利用促進活動 ・小・中学校・幼稚園・保育園・福祉施設などへの団体貸出 ・高齢者等のサービスとして「大活字本」の資料の充実に努める。 			
今年度の事業目標 実績・成果	今年度(H27)の事業成果等			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート事業では、380名の乳幼児に絵本を配布し、保護者には図書館の紹介や「おはなし会」の案内などを行った。 ・移動図書館車の利用にあつては、地域巡回と小学校への訪問で利用者が増えた。 ・団体貸出では、120団体14175冊の貸出があった。 ・その他、図書館まつりを開催し、図書館の利用促進、認知度アップを図った。 ・資料購入(図書5735冊・雑誌899冊・AV44点)・移動図書館(貸出人数1357人、貸出冊数7327冊)・ブックスタート380名・おはなし会724名 			
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由		
事業実施の妥当性	妥当である	図書館の設置及び運営については、図書館法による自治体の責務である。		
事業の有効性	有効である	住民の要望等を受けた資料の購入や自治体間の広域利用も促進され、利用者は増えつつある。		
資源投入の効率性	効率的である	開館時間の延長、祝日開館に取り組みながら必要最小限の人員で運営している。		
サービスの公平性	公平である	小川図書館、玉里図書館、美野里公民館図書室がそれぞれ連携を図りながら運営しており、公平である。また0歳から図書利用カードを作成し、利用できる。		
所管課評価	評価	妥当性、有効性、効率性、公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。		
	出来ている	3館ある図書館の規模が違う為、蔵書数に違いがあるが、市内の図書館・図書室間の資料のやりとりについては、スピーディーに対応しており、利用のニーズに答えている。		
		今後の課題・改善策等		
		利用者サービスの向上のため、図書館司書の配置が必要である。		
外部評価員による評価 【 出来ている 】				
意見	図書館司書の配置は重要である。また、ボランティアの導入、育成を検討するなど職員の充実を考えていただきたい。 施設については体の不自由な方が自由に入れにくい不親切な立地となっており、改善が必要。			
教育委員会による総合評価 【 継続 】				
意見	指定管理者制度や施設を集約しIT化を図ること等も視野に入れながら、引き続き利用者のサービス向上に努めていただきたい。			

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）			No.19
事務事業名	コスモスプロジェクト活性化事業	所管課	生涯学習課
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	社会教育活動総合事業
基本施策	(3) 芸術・文化の振興	事業費	1,000 千円
個別施策	③施設の活性化		
事業の対象	市民		
事業の目的	生涯学習センターコスモスの利用促進・認知度を上げるとともに、生涯学習の振興を図る。		
事業の内容	住民からなる実行委員会を設置し、イベント等の企画立案を行い、住民との協働による生涯学習センターコスモスの活性化を図る。		
今年度の事業目標実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標		
	事業の企画立案をする定例会を毎月1~2回開催し、様々なイベントを実施することで、施設への関心度を向上させるとともに、参加及び来館者を増やし活性化を図る。		
	今年度(H27)の事業成果等		
	事業の企画立案をする会議を定期的に行い、絵本の読み聞かせやコンサートをはじめ、様々なイベントを実施することができた。市民の施設利用が増加するとともに、実施した事業へのアンケート調査結果も好評であった。 コスモスプロジェクト会議24回 イベント等11事業19回 入場者数約2,200人		
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由	
事業実施の妥当性	妥当である	文化の活性化と生涯学習の振興は一体となっていてすすめていかなければならない。それぞれのホールの特徴や地域の特性を活かし活性化を進めていく必要がある。	
事業の有効性	有効である	通常の貸館のみでは、活性化は図られにくい。コスモスプロジェクト活性化事業での市民協働における事業展開は大いに貢献が期待できるものである。	
資源投入の効率性	やや効率的である	コスモスプロジェクト活性化事業が認知され事業が軌道に乗るまでは、それなりの投資が必要であり、早期にコスモス活性化の基盤を確立していく。	
サービスの公平性	公平である	誰もが気軽に利用できる施設であり、公平である。	
所管課評価	評価	妥当性、有効性、効率性、公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。	
	出来ている	生涯学習へのきっかけづくりや文化への活性化を図りながら、施設の利用増大につながっている。	
		今後の課題・改善策等	
		事業が硬直しないよう、常に住民との協働による事業展開を目指し、様々な企画立案から実施にいたるまでの基盤づくりをしっかりと取り組んでいく。	
外部評価員による評価 【 出来ている 】			
意見	コスモスプロジェクトの活動は、会議の回数を見ても素晴らしいが、さらに地区公民館を含めて全体をコーディネートする機能があっていい。今後どのように効率良く事業を実施していくのか、市全体を見回すことが生涯学習センターには必要で、このことがコスモスの活性化に繋がっていくと思われる。		
教育委員会による総合評価 【 継続 】			
意見	コスモスプロジェクトがコーディネート機能を持つ事ができれば、他の公民館事業にもプラスになると思われる。今後もコスモスの活性化に力を入れていただきたい。		

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）			No.20
事務事業名	文化財事業	所管課	生涯学習課
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	文化財調査・管理経費
基本施策	(3) 芸術・文化の振興	事業費	6,151 千円
個別施策	④文化財の保護と活用		
事業の対象	市, 市民, 事業者, 市指定文化財所有者		
事業の目的	市の貴重な財産である文化財を保護、調査することにより、文化の香高い「まちづくり」に貢献し、市民に郷土への愛着と誇りを持ってもらう。		
事業の内容	市指定文化財管理に伴う指導、埋蔵文化財保護および記録保存目的とした発掘調査および地上文化財の悉皆調査等の事業を直営にて行なう。なお、埋蔵文化財の試掘調査等は、市内遺跡発掘調査として、国の補助を得ている。		
今年度の事業目標実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標		
	開発および公共事業等に伴う埋蔵文化財に係る各種届出、調査を実施し、円滑にその取扱いが行なわれるよう努める。また、調査等で出土した資料の活用を図る。		
	今年度(H27)の事業成果等		
	「宮前遺跡」にて、羽鳥小学校6年生に発掘調査の体験学習を実施した。また、発掘調査の出土品を展示する「地下に眠るおみたま」を開催することにより、出土品の活用が図れた。 ○埋蔵文化財保護事業 照 会 180件 試掘調査 24件(雷神山古墳付近 外) 発掘調査 3件(堀之内遺跡・宮前遺跡・南原遺跡) 工事立会 1件(茱良木立遺跡) ○発掘体験事業 1件(羽鳥小学校) ○出前講座事業 4件(納場小学校 外) ○市指定文化財 補助金 1件(中台の一里塚) 民俗文化財活動補助金等 4件(堅倉ばやし保存会外) ○文化財看板設置事業 3件(素鷲神社のケヤキ 外) ○広報活動 広報おみたま 歴史を知ろうシリーズ(隔月)		
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由	
事業実施の妥当性	妥当である	文化財保護法およびそれに伴う各種政令および基準等に基づき、実施していく事業であるため、教育委員会により実施される必要がある。	
事業の有効性	有効である	埋蔵文化財や指定文化財の保護については、その取扱いについて、おおむね浸透してきていると言える。	
資源投入の効率性	効率的である	市指定文化財および埋蔵文化財等についての保護調査の成果は、小美玉市史料館報に成果が公開されるとともに、史料館の参考展などにも反映され、十分な成果をあげているものと考えられる。	
サービスの公平性	公平である	対象者は、事業者、指定文化財所有者であり、公平である。	
所管課評価	評 価	妥当性、有効性、効率性、公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。	
	出来ている	開発および公共事業において、埋蔵文化財の調査等指導を円滑に実施しており、出土品を史料館の企画展や小学校での出前講座などで、十分な活用もしている。また小学生による発掘体験も実施するなどの学習機会作るなど、大いに役立てることができた。	
		今後の課題・改善策等 文化財係は学芸員2人で対応しており、調査件数も多いことから、委託調査費の増額や環境・体制整備をすることが課題である。	
外部評価員による評価 【 十分出来ている 】			
意見	委託調査費の増額や環境・体制整備の課題がある中、現在の体制では十分出来ている。普及事業等を通し、ぜひ自分たちの後継者となるような子どもたちを育てていただきたい。		
教育委員会による総合評価 【 継 続 】			
意見	埋蔵文化財は地域の財産でもあるので、調査・保護が円滑に進むよう努めていただきたい。発掘調査を委託することも検討してはどうか。職員増を期待する。		

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）				No.21
事務事業名	史料館運営事業	所管課	生涯学習課	
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	史料館運営費	
基本施策	(3) 芸術・文化の振興	事業費	1,118	千円
個別施策	⑤史料館活動の充実			
事業の対象	市民、および史料館利用者			
事業の目的	郷土の自然、歴史、習俗などを知ることによって郷土愛を育み、郷土に対する誇りを持てるようにするため。また、未来ある子どもたちに、豊かな人格形成を促すために活動を行う。			
事業の内容	参考展示、各種講座、団体見学等への対応を直営で実施する。市内の文化財に関する調査研究を日常的に行い、各種講座、展示等の企画に反映させている。また、その成果の一部は小美玉市史料館報により公表している。			
今年度の事業目標実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標			
	市民が地域の歴史に触れる機会を充実させるため、小川資料館において展示会や歴史探訪講座を実施して入館者を20%増加する。 前年度比+20% (457名) 平成26年度：入館者381名			
	今年度(H27)の事業成果等			
	平成27年度は、小川資料館で参考展「おみたまの年中行事と民間信仰」および歴史探訪講座「江戸・東京の生活を支えた内川廻しを学ぶ」を開催した結果、入館者は前年度+83%(700名)を達成した。 ○展示事業 (3本) ・ケースギャラリー展「地下に眠るおみたま」-平成25年度遺跡調査成果より-入館者227名 4/18～7/30 玉里史料館 ・企画展「海軍航空隊の記憶」-百里原海軍航空隊から予科練まで-入館者568名 9/19～11/22 玉里史料館 戦争体験講演会 参加者 146名 10/3 ギャラリートーク(展示説明会) 参加者15名 ・参考展「おみたまの年中行事と民間信仰」 入館者208名 3/1～5/8 小川資料館 ○教育普及事業 ・史料館歴史探訪講座 (2回) 百里原海軍航空隊ゆかりの地をさぐる 参加者28名 江戸東京の生活を支えた内川廻しを学ぶ 参加者15名 入館者 玉里史料館1,436名 民家園2,216人 小川資料館700人 団体見学(12団体)			
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由		
事業実施の妥当性	妥当である	展示事業の充実に対するニーズは高く、また団体見学なども多い。これらの事業は、日常的な調査研究に負う所も多く、公的機関でないと十分にそれができない。よって教育委員会が実施する妥当性は高い。		
事業の有効性	有効である	展示事業に対するニーズは高く、地域の歴史を再認識することができ、有効性があると思われる。しかし、予算的制限もあり、借用できる資料も限定されてしまう傾向がある。また、図録の刊行の要望があることから、自家印刷で対応している。		
資源投入の効率性	効率的である	限られた予算措置の中で、創意工夫をして、展示事業を実施しており、その状況を考えれば、効率性は高いと思われる。		
サービスの公平性	公平である	展示事業は、入館無料で入館制限をしていない。また、歴史探訪講座では、原則的には市内在住在勤に限定しているが、募集が人員に達しない場合は受け入れている。		
所管課評価	評価	妥当性、有効性、効率性、公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。		
	出来ている	平成27年度は戦後70年の節目の年に当たり、企画展・講演会・歴史探訪講座も戦争にまつわる事業としたため、かなりの集客ができ、参加者も勉強になり考えさせる内容で、好評であった。		
		今後の課題・改善策等		
		いかに集客できる企画展を計画していくか、若者を呼び込める企画展を計画できるかが課題である。		
外部評価員による評価		【 十分出来ている 】		
意見	戦後70周年の企画展、講演会は素晴らしい企画。史料館としての機能を考え、デジタルアーカイブについては、権利処理等に留意し、過去の史料だけでなく、現在の小美玉市の情報を後世に残していただきたい。			
教育委員会による総合評価		【 継続 】		
意見	施設（史料館・資料館）の統合など、利活用の見直しも必要ではないか。			

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）				No.23
事務事業名	市各種大会開催事業	所管課	スポーツ振興課	
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	体育振興活動経費	
基本施策	(4) スポーツ・レクリエーションの振興	事業費	3,761	千円
個別施策	①スポーツ活動の場と機会の充実			
事業の対象	全市民			
事業の目的	多様な参加体験の場を提供することによって、すべての市民がスポーツやレクリエーションに取り組むきっかけづくりに寄与する。また、中学生の特別活動の成果、近隣校との交流を図るとともに、スポーツの爽快感、達成感、さらには、スポーツをする楽しさや喜びをもたらすなど心身の両面にわたる健全な発達に資するものであり、子どもたちが生涯にわたって健康で明るい生活を送るための基礎づくりに寄与する。			
事業の内容	スポレクデー、新春歩け歩け大会、市民駅伝競走大会などの開催 教育長杯中学生スポーツ大会の開催（テニス・バレーボール・野球・バスケットボール・柔道）			
今年度の事業目標実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標			
	イベントや大会など、さらなるスポーツに親しむ場の提供に努める。			
	今年度(H27)の事業成果等 初開催のスポレクデーは悪天候にも拘わらず多くの参加者があった。特に市独自の小美玉ギネスは好評であった。また、歩く会、駅伝競走大会などの事業を通して、子どもから大人まで多くの市民が参加することによりスポーツに親しむ場を提供し、日頃スポーツに親しむ機会の少ない市民に対し幅広く、生涯スポーツの振興を図った。 また、教育長杯大会においてほぼ自主運営することができた。 ・スポレクデー：2,156人（延べ） ・ゴルフ大会160人・新春歩け歩け大会300人・市民駅伝競走大会167チーム ・教育長杯中学生スポーツ大会			
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由		
事業実施の妥当性	妥当である	市の基本目標である「生涯スポーツの普及・促進」の観点から、多様な世代にスポーツに触れ合う機会、きっかけづくりを提供することができた。		
事業の有効性	有効である	多様な世代にスポーツに触れ合うきっかけづくりとして体験参加型のイベントは有効である。また、市内体育施設を有効に活用したスポーツ大会などによるスポーツの普及・振興にも寄与できた。		
資源投入の効率性	やや効率的である	費用対効果は大きいと判断できる。また、スポレクデーに関しては、民間企業等の後援、協賛、協力等を受け効率的に開催することができた。		
サービスの公平性	公平である	広く一般市民を対象としたイベントであり、多くの参加が得られた。		
所管課評価	評価	妥当性、有効性、効率性、公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。		
	十分出来ている	多様な世代にスポーツに触れ合う機会、きっかけづくりを提供することができ、多くの参加者の好評を得た。また、市内体育施設を有効に活用したスポーツ大会などを含めて、大きくスポーツの普及・振興にも寄与できた。		
		今後の課題・改善策等 スポーツイベントのさらなる内容充実と参加者の拡大に向けた取り組みや、違った視点でのスポーツイベントも検討する必要がある。		
外部評価員による評価 【 十分出来ている 】				
意見	「スポレクデー」を初開催するなど、新しい取り組みに挑んでいるが、実施種目については検討しながら進める必要がある。初めて取り組むものについては、ぜひ記録に残していただきたい。課題・改善等については、具体的な記述を求める。			
教育委員会による総合評価 【 継続 】				
意見	体験型の内容も多く取り入れられているので、幅広い年齢層が参加できるスポーツに親しむ大会となることが望まれる。			

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）			No.24	
事務事業名	スポーツ推進委員運営事業	所管課	スポーツ振興課	
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	保健体育事務費	
基本施策	(4) スポーツ・レクリエーションの振興	事業費	1,045	千円
個別施策	②指導者・スポーツ団体の育成			
事業の対象	市の任命したスポーツ推進委員（26名）			
事業の目的	地域内でのスポーツに関する場面で指導的な役割で地域スポーツの裾野を広めるコーディネーターとして活動する。また、生涯スポーツの推進・定着を目的とする。			
事業の内容	市事業の運営協力・アドバイス (地域スポーツの指導及び振興)			
今年度の 事業目標 実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標			
	スポーツ推進委員の定数確保に努める。			
	今年度(H27)の事業成果等			
	若い年代の適任者を発掘するのが難しかったが、H28.3末任期満了に伴い、70歳以上の委員については再委嘱を見送った。 ・新春歩け歩け大会・市民駅伝競走大会への協力 ・ニュースポーツフェスティバルの企画・運営 ・地区及び県協議会の研修への参加			
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由		
事業実施の妥当性	妥当である	多様なスポーツを広く提供する、また地域と市のパイプ役として重要な役割を担っている。		
事業の有効性	やや有効である	新たに開催したスポレクデーとの整合、他所管で開催している大会と一部重複している。		
資源投入の効率性	効率的である	自主的に運営している。		
サービスの公平性	やや公平である	広く一般市民を対象としている。		
所管課 評価	評価	妥当性、有効性、効率性、公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。		
	出来ている	市のスポーツ振興を図る上で、重要な役割を担っている。		
		今後の課題・改善策等		
		スポーツ推進委員会の主催事業であるニュースポーツ大会も6年目となり、事業の定着化が図られつつあるが、平成25年度から取り入れた「スポーツ吹矢」への参加者が伸び悩んでいる。参加を促すための検討をする必要がある。		
外部評価員による評価 【 十分出来ている 】				
意見	組織のあり方については、今年度若い人材の加入によりうまく引き継ぐことが出来ている。障害者や高齢者に注目されているスポーツについては、福祉部局とも連携を図っていただきたい。			
教育委員会による総合評価 【 終了 】				
意見	若い人材の加入により組織改革が図れたことを評価する。			

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）				No.25
事務事業名	市スポーツ少年団育成事業	所管課	スポーツ振興課	
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	保健体育事務費	
基本施策	(4) スポーツ・レクリエーションの振興	事業費	872	千円
個別施策	②指導者・スポーツ団体の育成			
事業の対象	小美玉市スポーツ少年団			
事業の目的	子どもたちにスポーツ活動を通して、礼儀や思いやりのある心を育て青少年の健全育成を図る。			
事業の内容	スポーツ少年団主催による指導者研修会、陸上交流大会等の開催。 指導者養成講習会への参加。			
今年度の 事業目標 実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標			
	各団の有資格者（認定指導員）を養成するとともに、資質の向上を図る。			
	今年度(H27)の事業成果等			
	各スポーツ少年団指導者を対象とした研修会（スポーツリーダー、認定指導者講習会）を行い、指導者の育成・資質向上に努めた。 有資格者：106人（保有率：65.4%）			
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由		
事業実施の妥当性	妥当である	市の個別施策「指導者・スポーツ団体の育成」の観点から、育成や活動を支援することは重要である。		
事業の有効性	有効である	スポーツ少年団は青少年の健全育成・生涯スポーツ社会実現等の観点からも有効である。		
資源投入の効率性	やや効率的である	少年団活動の一助となっている。また、当課が事務局を担っている。		
サービスの公平性	やや公平である	少年団に限定される。		
所管課 評価	評 価	妥当性、有効性、効率性、公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。		
	出来ている	市の重点施策と青少年の健全育成・生涯スポーツ社会実現等の一翼を担っている。		
		今後の課題・改善策等		
		スポーツにふれあうきっかけづくりに努めるとともに、各スポーツ少年団の団員確保や指導者の更なる意識の改善、資質の向上を図る。		
外部評価員による評価 【 十分出来ている 】				
意見	指導者には、リスク管理を充実していただきたい。市としてもリスク管理について十分関心を持っていただき、指導員の質を高めていただきたい。			
教育委員会による総合評価 【 継続 】				
意見	指導員の資格保有率が年々高くなっており評価できる。引き続き事業目的達成に向けて継続していただきたい。			

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）				No.26
事務事業名	総合型地域スポーツクラブ活動支援事業	所管課	スポーツ振興課	
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	体育振興活動経費	
基本施策	(4) スポーツ・レクリエーションの振興	事業費	5,314	千円
個別施策	②指導者・スポーツ団体の育成			
事業の対象	総合型地域スポーツクラブ（市民）			
事業の目的	スポーツに触れ合うきっかけづくりなど、市民が気軽にスポーツを楽しむことのできる機会の充実を図る。			
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ振興事業（スポーツ教室の開催） ・市主催事業への協力及び講師派遣 			
今年度の事業目標実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標			
	会員（参加者）の拡大を図る。			
	今年度(H27)の事業成果等			
	7教室（21コース）の教室を開催している。会員数も12%増（前年比）となっている。			
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由		
事業実施の妥当性	妥当である	個別施策の重点施策に位置づけられており、多様なスポーツ環境を提供している。		
事業の有効性	有効である	スポーツのきっかけづくり、スポーツ機会の充実に貢献している。		
資源投入の効率性	効率的である	業務委託により柔軟で効率的な事業実施ができています。		
サービスの公平性	やや公平である	広く一般市民（子どもたち含む）を対象に事業を実施しているが、スポーツクラブは1団体に止まっている。		
所管課評価	評価	妥当性、有効性、効率性、公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。		
	十分出来ている	市の重点施策であり、市民が気軽にスポーツを楽しめる場として、重要な役割を担っている。		
		今後の課題・改善策等		
		スポーツクラブが設立され3年半が経過し、市内にスポーツクラブが認知されてきており、会員数が増加してきている。今後は、更なる会員（参加者）の拡大を図るとともに魅力あるクラブづくりのために指導していく。		
外部評価員による評価		【 十分出来ている 】		
意見	期待値の高い事業であり、今後さらなる会員の拡大や魅力あるスポーツ教室の開催を希望する。			
教育委員会による総合評価		【 継続 】		
意見	引き続き、行政とスポーツクラブが連携を行い、継続して活動できることを期待する。			

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）				No.27	
事務事業名	新入学児童用ランドセル購入事業	所管課	生涯学習課		
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	新入学児童用ランドセル購入事業		
基本施策	(5) 青少年の健全育成	事業費	5,928	千円	
個別施策	②家庭・地域の環境づくり				
事業の対象	市内小学校新入学予定児童				
事業の目的	市内小学校入学予定児童の新入学を祝うとともに、健やかな成長を願い記念品を贈呈し、物を大切にすることを育むとともに、子育て支援及び家庭教育の充実に資する。				
事業の内容	七つの祝い式典時に、記念品としてランドセルの贈呈を行っている。				
今年度の事業目標実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標				
	新入学児童の入学を祝い、記念品を通して健やかな成長を願い、子ども達の物を大切にすることを育むとともに、子育て支援及び家庭教育の充実に資する。				
	今年度(H27)の事業成果等				
	市全体の小学校に、同じランドセルを使用する事により、市の一体化の一端を担うとともに、子ども達の物を大切にすることを伸ばしながら青少年の健全育成を図り、子育て支援並びに家庭教育の推進がなされた。 購入個数447個				
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由			
事業実施の妥当性	妥当である	市全体の小学校に、同じランドセルを使用する事により、市の一体化の一端を担うとともに、子どもたちの健やかな成長を願い、物を大切にすることを育む子育て支援及び家庭教育の充実に資する。			
事業の有効性	有効である	市全体の小学校において、同じランドセルを使用する事により、差別やいじめの解消に繋がるとともに子育て支援の推進を図る。			
資源投入の効率性	効率的である	ランドセルは、6年間保証されているので、修理が必要になった時には生涯学習課よりランドセルを工場に郵送。その際に代替のランドセルを貸し出ししている。			
サービスの公平性	公平である	ランドセルは、七つの祝い式典において、記念品として贈呈しているが式典後、3月31日までに小美玉市に転入して来た該当新入学児には贈呈している。			
所管課評価	評価	妥当性、有効性、効率性、公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。			
	十分出来ている	市全体の小学校新入学児が同じランドセルを使用することにより、差別やいじめの解消に繋がるとともに、子育て支援や家庭教育の推進に寄与している。			
		今後の課題・改善策等			
		七つの祝い式典時に贈呈しているため、その後、市外小学校へ入学する子どもにも渡している。			
外部評価員による評価		【 十分出来ている 】			
意見	贈呈時期については、転出入者に配慮した時期を検討いただきたい。 税金を投入した事業であるので、卒業時により公共性の高い事業展開ができれば良いのではないかと。				
教育委員会による総合評価		【 継続 】			
意見	今後も長く続けていただきたい事業である。				

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）				No.28
事務事業名	講演会開催事業	所管課	生涯学習課	
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	社会活動総合事業	
基本施策	(5) 青少年の健全育成	事業費	448	千円
個別施策	④社会参加の促進			
事業の対象	小美玉市民			
事業の目的	市民への学習機会の提供			
事業の内容	生涯学習に沿ったテーマでの著名人による講演会を年1回開催			
今年度の事業目標実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標			
	生涯学習のテーマに沿った講演会を開催し、多くの市民に学習の機会を提供し生涯学習の充実を図る。			
	今年度(H27)の事業成果等 平成27年度は、講師に菊地幸夫氏を迎え「出会いの人生から学んだこと」をテーマに文化講演会を開催し、約252名の方が来場され、多くの方々から「ユーモアを交えて身近な問題の話しや遺産相続などわかりやすくお話ししていただき勉強になりました。」等の意見をいただいた。 来場者約252名			
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由		
事業実施の妥当性	ほぼ妥当である	多くの市民の方に、学習の機会を提供し、生涯学習の充実を図る。		
事業の有効性	やや有効である	著名な方を講師に迎え講演会を開催し、学習の機会を提供する事は、生涯学習の充実を図る上で効果的である。		
資源投入の効率性	効率的である	決められた予算の中で、テーマや講師を選択し、著名な方を講師に迎え講演会を開催する。		
サービスの公平性	公平である	講演会の開催を、広報誌・ホームページ・チラシ等で、市民の方・各方面の団体の方に周知しており無料で聴講できる。		
所管課評価	評価	妥当性、有効性、効率性、公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。		
	出来ている	生涯学習の充実を図る上で効果的な事業であり、有名人を講師に向かえることで、市民に興味を持ってもらうことができる。		
		今後の課題・改善策等 限られた予算の中で、講師やテーマを決めるため講師によって、聴講者数にバラつきがあるので、ニーズ・広報等を含め検討が必要である。		
外部評価員による評価		【 出来ている 】		
意見	限られた予算の中で、講師・テーマの選択は難題と思われるが、今後も適切に計画していただきたい。講演内容については、講師とディスカッション出来るような参加性のあるものを検討していただきたい。			
教育委員会による総合評価		【 継続 】		
意見	来場者の増加が図れるような講師の選択をお願いしたい。			

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）			No.29	
事務事業名	成人式事業	所管課	生涯学習課	
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	成人式典事業費	
基本施策	(5) 青少年の健全育成	事業費	1,284	千円
個別施策	④社会参加の促進			
事業の対象	市内新成人			
事業の目的	新たに成人された方への祝福と、成人者としての心構えの意識づけ			
事業の内容	成人式典の開催			
今年度の 事業目標 実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標			
	新成人者による実行委員会を開催し、自分達で式典の企画運営をし成人者としての心構えや意識づけを図る。			
	今年度(H27)の事業成果等			
	新成人者による実行委員会を開催し、自分達で式典の企画運営をし成人者としての心構えや意識づけを図る。 出席者443名			
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由		
事業実施の妥当性	妥当である	成人者による実行委員会形式の成人式典は、自分達で企画運営するので、成人者としての心構えや意識づけが図れる。		
事業の有効性	有効である	実行委員会形式で、成人式典の企画運営・進行等を実施してもらう事で、式典に参加する成人者の心構えや意識づけ思い出に残る式典となっている。		
資源投入の効率性	効率的である	実行委員の方々には、なかなか全員揃っての話し合いを持つ事が出来ない中、時間や日程の調整をつけていただき、企画運営をしてもらっている。		
サービスの公平性	公平である	市内在住の成人者及び市内中学校卒業生全員に通知して、式典の周知を図っている。毎年、参加していただいた成人者の方々には、式典終了後、各地区ごと記念写真を撮影し、参加者全員に写真を郵送している。		
所管課 評価	評価	妥当性、有効性、効率性、公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。		
	十分出来ている	成人者により実行委員会が企画し、当日、式典の運営をすることにより、参加者も真剣に話を聴き、思い出に残る式典となっておりトラブルもない。		
		今後の課題・改善策等		
		成人式実行委員会は各中学校から代表3～4名選出しているが、スムーズに決まらないこともあり、選出方法の検討を要す。また、不穏な動きを早い段階でキャッチし、トラブル回避に努める。		
外部評価員による評価		【 十分出来ている 】		
意見	実行委員による企画運営を今後も継続されたい。成人式の記録については、権利処理に留意し、公文書として残していただきたい。			
教育委員会による総合評価		【 継続 】		
意見	今後も自主的な企画運営を維持し事業を継続していただきたい。			

平成28年度教育委員会事務事業点検・評価シート（平成27年度事業）				No.30
事務事業名	放課後子どもプラン事業	所管課	学校教育課	
基本目標	6. 個性豊かな教育・文化のまち	予算事業名	放課後児童対策事業	
基本施策	(5) 青少年の健全育成	事業費	108,123	千円
個別施策	⑤放課後子ども教室の推進			
事業の対象	小美玉市内小学校児童(1年生～6年生)			
事業の目的	放課後児童クラブ事業と放課後子ども教室事業を連携し総合的な放課後対策を講じることにより、児童の安全・安心な活動場所を確保する。また、地域全体で子育てを推進する体制を整備し、児童の健全な育成に努めるとともに保護者の就労機会の拡大及び子育て支援の充実を図る。			
事業の内容	放課後児童クラブと放課後子ども教室を「放課後子どもプラン事業」として一体的に整備し、安全で安心な放課後等の活動拠点を設けるとともに、指導員やコーディネーターを配置し勉強・スポーツ・文化活動などを実施する。また、地域の方々の参画を得て交流活動等を実施することにより、児童が地域との交流を深め、地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。			
今年度の事業目標実績・成果	今年度(H27)当初の事業目標			
	利用登録人数が500人を超えるすべての児童が、安全・安心して過ごせる環境づくりのために、指導員の資質向上を図る研修会の実施やコーディネーターを通して指導員の情報の共有化及び課題解決の場を創出し、利用者の満足度の向上を図る。また、支援が必要な児童も利用しているので、より専門性の高い研修会に積極的に参加していく。			
	各プラン合計延べ200回程度の地域ボランティアによるイベントを実施する。			
	今年度(H27)の事業成果等			
指導員の資質向上を図るため、県主催の発達障害の子どもたちと向き合うための研修会に積極的に参加した。指導員間の直接的な情報交換の場は少なかったが、コーディネーターにより情報交換を通じて、業務の改善やサービス水準の向上が図られた。各プラン年間24回(延べ264回)のイベントが実施され、その中でも様々な災害を想定した避難訓練を実施し、自主的に消防署員による講習会を企画するなど危機管理につながる事業については拡充し今後も継続実施を図りたい。				
開設箇所数 11箇所 利用児童数 528人 (H27.5.1現在平常利用登録数)				
評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由		
事業実施の妥当性	妥当である	年間利用延人数は年々増加しており、放課後における子どもたちの安全で健やかな居場所づくりが推進されるとともに、子どもたちと地域との交流が深められ、児童の健全育成が図られている。		
事業の有効性	有効である	利用登録人数及び1日平均利用人数においても年々増加しており、保護者・教室運営スタッフ・学校との連携が上手くとれており、児童が安心してプランを利用している。		
資源投入の効率性	効率的である	事業費・利用登録人数は前年度に比べてほぼ横ばいであるが、平均利用人数は増加しているため、運営に係る児童1人あたりのコストは下がっており、効率的である。		
サービスの公平性	やや公平である	民間利用者との格差をなくすため、補助により公共の実施利用時間内は同一の利用料で対応している。 しかし利用者の中には、利用料の滞納があるのも関わらず子どもを預けにくる保護者がいることから、公平性の面から今後何らかの対応が必要となる。		
所管課評価	評価	妥当性、有効性、効率性、公平性の評価をもとにした所管課の総合的な評価。		
	十分出来ている	子育て支援・青少年健全育成事業として市の施策に位置づけられている。 子どもたちの安全で安心な居場所の確保と、地域の人々による支援協力を通じて、地域教育力の向上に寄与している。		
		今後の課題・改善策等		
		参加児童数は年々増加傾向にあるが、安定した運営を行っている。 今後一層の充実を図るため、指導員の育成を継続するとともに、民間児童クラブや地域との交流活動等を実施し連携を図る必要がある。		
外部評価員による評価 【 十分出来ている 】				
意見	プランの中で預かった子どものリスク管理は重要であるので、今後もリスク管理の充実及び指導員の質の向上を図っていただきたい。			
教育委員会による総合評価 【 拡大 】				
意見	ニーズの高い事業であるので、指導員の質の充実とともに「子どもが成長できる」ような内容の充実を図っていただきたい。			

IV 教育委員会点検・評価結果一覧

基本施策	個別施策	事務事業名	自己評価	外部評価	総合評価	担当課
(1) 学校教育の充実	① 幼児教育の推進	幼稚園預かり保育事業	十分出来ている	出来ている	拡大	学校教育課
	② 確かな学力を身に付けさせるための教育の推進	学力向上支援事業	十分出来ている	十分出来ている	拡大	指導室
	③ 豊かな心を育む教育の推進	自然教室事業	十分出来ている	十分出来ている	継続	指導室
		スクールソーシャルワーカー事業	十分出来ている	出来ている	継続	指導室
		生活介助員配置事業	十分出来ている	出来ている	継続	学校教育課
	④ 健康な体力を育む教育の推進	給食センター運営事業	十分出来ている	十分出来ている	継続	学校給食課
	⑤ 社会の変化に適切に対応できる教育の推進	語学指導事業	十分出来ている	十分出来ている	継続	指導室
	⑥ 開かれた学校づくりの推進	学校支援ボランティア活用事業	出来ている	出来ている	継続	指導室
	⑦ 教育施設整備の推進	学校耐震対策事業	十分出来ている	出来ている	継続	施設整備課
小中学校規模配置適正化事業		出来ている	十分出来ている	継続	施設整備課	
(2) 生涯学習の充実	① 生涯学習活動の推進	家庭教育学級活動	出来ている	出来ている	継続	生涯学習課
		やすらぎの里小川運営事業	出来ている	あまり出来ていない	継続	生涯学習課
	② 生涯学習環境の充実	子ども体験講座事業	出来ている	出来ている	継続	生涯学習課
		高齢者大学事業	出来ている	出来ている	継続	生涯学習課
		七つの祝い記念イベント事業	十分出来ている	十分出来ている	継続	生涯学習課
		各区公民館整備費補助事業	出来ている	出来ている	継続	生涯学習課
	④ 公民館活動の充実	公民館事業（公民館講座）	出来ている	出来ている	継続	生涯学習課
⑤ 図書館活動の充実	図書館運営事業	出来ている	出来ている	継続	生涯学習課	

(3) 芸術・文化の振興	③施設の活性化	コスモスプロジェクト活性化事業	出来ている	出来ている	継続	生涯学習課
	④文化財の保護と活用	文化財事業	出来ている	十分出来ている	継続	生涯学習課
	⑤史料館活動の充実	史料館運営事業	出来ている	十分出来ている	継続	生涯学習課
(4) スポーツ・レクリエーションの振興	①スポーツ活動の場と機会の充実	スポーツ教室開催事業	十分出来ている	出来ている	継続	スポーツ振興課
		市各種大会開催事業	十分出来ている	十分出来ている	継続	スポーツ振興課
	②指導者・スポーツ団体の育成	スポーツ推進委員運営事業	出来ている	十分出来ている	終了	スポーツ振興課
		市スポーツ少年団育成事業	出来ている	十分出来ている	継続	スポーツ振興課
		総合型地域スポーツクラブ活動支援事業	十分出来ている	十分出来ている	継続	スポーツ振興課
(5) 青少年の健全育成	②家庭・地域の環境づくり	新入学児童用ランドセル購入事業	十分出来ている	十分出来ている	継続	生涯学習課
	④社会参加の促進	講演会開催事業	出来ている	出来ている	継続	生涯学習課
		成人式事業	十分出来ている	十分出来ている	継続	生涯学習課
	⑤放課後子ども教室の推進	放課後子どもプラン事業	十分出来ている	十分出来ている	拡大	学校教育課

V 外部評価員による総評

生活介助員、スクールソーシャルワーカーについては、更なる充実をお願いしたい。教育の仕事は命に関わるので、命に関わるリスク管理、特に施設の耐震の問題や災害時のソフト面等のリスク管理の充実を図っていただきたい。

教育施設については、対応年数等、耐震の問題も含めて整備計画を議論し、何年に公共施設をどのように整備していくか早めに取り組んでいただきたい。これから地方自治体の財源は厳しくなることが予想されるので、内部資料としてでも良いので、教育委員会の中で教育施設の整備計画を作っていただきたい。

生涯学習に関しては、講座に参加出来ない、史料館などに来館出来ない方（入院中や施設入所者等）へどうアプローチしていくかを考えていただきたい。全国的には「インターネット市民塾」を実施している自治体もあるので、インターネットの活用も検討していただきたいと考える。

さらに、生涯学習は「いつでも、どこでも、誰でも、何でも学ぶ」ということを考えれば、高齢者の在宅の人たち、学校を含めた社会の制度の中の矛盾点に「ノー」と言った人たちが増加していることを踏まえ、在宅の方に対してのリスク管理や生涯学習をどう考えていくかが大きな課題である。在宅というところを視野に入れて教育を広く考えていただきたい。

学校教育、生涯学習ともに教育の効果はすぐには出せないため、生活介助員による教育への効果や生涯学習で高齢者の介護費用をどれだけ埋めていけるかなど、実践の中で対象者に対しどう効果があるのか、効果をデータで示せるよう最低限の調査は必要と思われる。

今後財政が厳しくなると、いろいろ出来ないことが出てくると思われる。効率性を考えれば縦割り行政にならざるを得ないが、ぜひ横断して行政を進めていただきたい。教育委員会だけでなく、高齢者や子どもに関係する部署と一緒に連絡調整をすることを教育委員会からぜひアプローチしていただきたい。

生涯学習課だけで生涯学習は出来ず、学校の先生方にだけ任せて地域が無関心では子どもたちは健全に育たない。セクションを越え地域全体での取組をお願いしたい。地域全体がエコミュージアムという考え方があがるが、これからは地域全体が教育施設であるというスタンスが必要。バス停も図書館や博物館であったり、建物から地域全体が教育を考えていく「エコエデュケーション(Ecology+Education)」の実践を、大学でも協力できると思うので、ぜひ日本初、小美玉発(初)で打ち出していただきたい。

教育委員会の予算は、一つ一つが小さいため予算取りが難しい。各地方自治体は、「先を見る」ということに取り組んでいるので、2030年くらいの先を見据えそれぞれの部署がプランを持っていた方が良い。

全体的にこれだけの予算でこれだけの事業を実施しているのは承知しているが、連携をすれば日本初、小美玉発のものがあるはずなので、初めての試みを市民と話しつつ試みて欲しい。